



志業と株式公開への戦略 **ザ・ベンチャーキャピタル**

訳書 **行間を語る**

一九九五年、このころから米国でネットスケープやアマゾンネットベンチャーの起業、株式公開ブームが始まり、ヤフーなどがあつたという間に世界を米国のシリコンバレーの覇者にした。これを生み出した巨大資金源がオールタナティブ運用の主役、ベンチャーキャピタル投資事業組合であり、米国では新規投資が五年で十倍になった。

日本ではバブル崩壊以降、国内産業の投資不足を引き起こし余剰資本が海外流出。結果的に、時代をリードする米国ネット企業の創業と競争力強化に貢献。創業ベンチャーが巨大な雇用を生む米国財政の健全化をもたらした。では、日本経済が不良債権で足踏みした間、米国ベンチャーキャピタルはいかにこの五年間の繁栄を作り上げてきたのか。ミクロの現場構造を解明した本が本書。日本が失った五年間をばっ回ししよう。監訳を引継ぎたい。

本書はアナリスト的論議が明確な制約に、ミクロ的状況の臨場感が味わえ、検

米VCの繁栄解明 ベンチャーNTVP代表 村口 和孝

討で読者を導く。最先端の生インタビューをかんたんに取り入れている。各章末に、日本のベンチャーキャピタル構造と比較して、無難な点をコラムで補充した。

重要な点の第一は、ベンチャーの最前線まで投資資本と現場の事業ネタを「投資事業組合」を介在して結合させる重大な役割を果たす職業が「ベンチャーキャピタリスト」だという点。そこには日本のサラリーマン企業が介在しない。

第二の点は、創業当初、財務的には売り上げが立つ前の事業準備支出で赤字が累積する段階。これをどう「先行評価」「時価評価」するか常に現場で問題となるが、第六章で評価法が詳しく説明されている。無論、未公開株の相続税評価方式はこの世界では無力。本書はベンチャー関係アナリストにも有益だろう。

巻末に日本のベンチャーキャピタルを可能な限り情報収集し新分類法に基づいて掲載した。本書から「新しいベンチャー資本主義の真髄と方法」を学び取り、新しい日本発のベンチャーキャピタリスト、証券アナリスト、ひいては多数の強力なベンチャー出現を期待したい。

ソフトバンク  
ペパリックスング  
本体価格二千二百円